

南陽市学校施設長寿命化計画（概要版）

- 計画の目的
 - 1 学校施設の安全性を確保しつつ、予算の平準化、トータルコストの縮減を図ります。
 - 2 施設の良好な状態を維持し、よりよい教育環境を確保します。
 - 3 効果的・効率的に長寿命化を図り、改築や改修、施設の更新の優先順位付けを行います。

- 対象期間 2020年度（令和2年度）から2049年度（令和31年度）の30年間
※原則として10年毎に見直しを行います。

- 対象施設 小学校 7校 中学校 3校 幼稚園 1園
(31棟 5.9万㎡)

Q. 長寿命化とは？

A, これまで築50年未満で「改築」していましたが
施設をできるだけ長く使用し、有効利用する考え方のことです。

■施設を長く利用するためには、次の3つの条件を満たす必要があります。

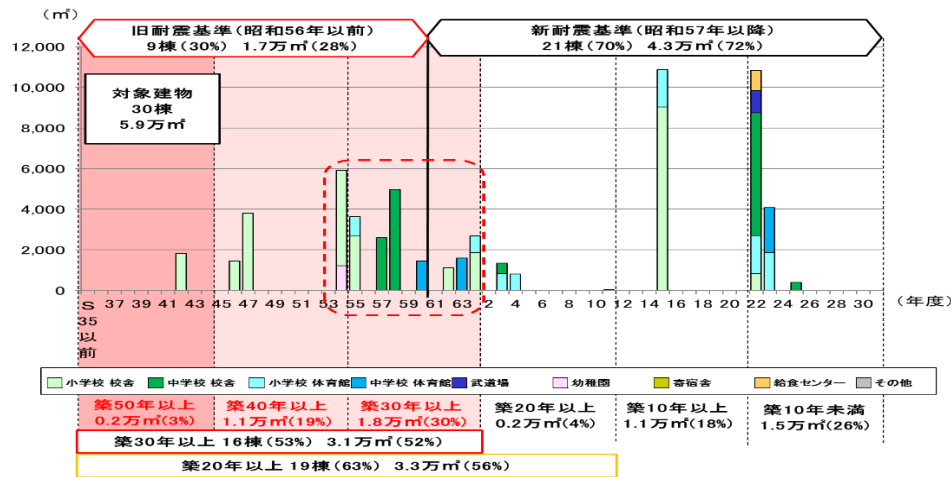
- ① 建物を支える骨格（柱や梁）の健全性が確保されていること。
- ② 骨格以外の内外装や設備が良好で、安全・安心な状態にあること。
- ③ 骨格以外の機能や性能が求められる水準にあること。

令和2年10月
南陽市教育委員会

現在の学校施設を取り巻く状況

その1 「 迫る施設の老朽化 」

- 全体の52%が築30年以上、全体の19%が築40年以上と築年数の古いものが多く、老朽化が進んでいます。
- 1978年～1989年に全体の41%が建設されており、今後、一斉に改修・改築を迎えることとなり、費用の平準化を検討する必要があります。



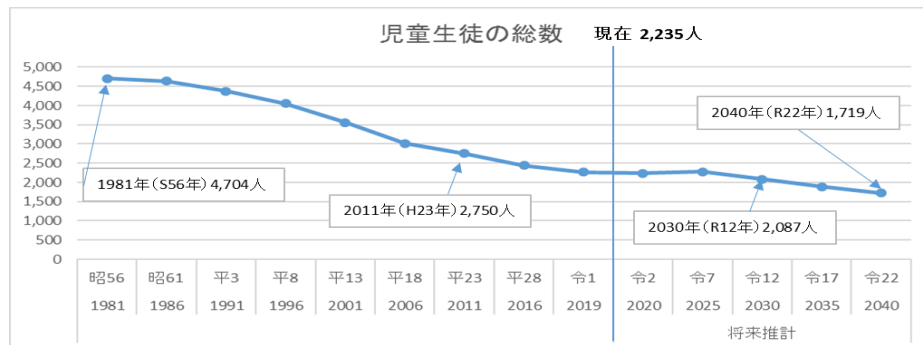
その2 「 施設の劣化状況の実態 」

- 劣化状況調査の結果、健全度の評価点が50点台の施設が2施設あり、今後、早期の大規模改修工事が必要となっています。

健全度	建物別割合		
	全棟 (30棟)	校舎棟 (18棟)	体育館棟 (12棟)
～40点	0%	0%	0%
41点～60点	6.7%	11%	0%
61点～80点	53.3%	56%	50%
81点～100点	40.0%	33%	50%
平均健全点数	78点	76点	82点

その3 「 更なる少子化 」

- 児童生徒数は、1981 (S56) 年の4,704人から、2011 (H23) 年までの20年間で2,750人まで減少、約30年後の2040(R22)年では、現在の人数の77%にあたる1,719人となる見込みです。



学校施設整備に関する今後の方針

方針1: 「改築中心」から「長寿命化」・「予防保全」へ

1 施設の使用年数

- 子供たちの安全・安心を確保しつつ、**使用年数を延長**します。
- 施設の使用年数を**原則80年**とし、施設整備を行います。

2 改修の考え方と標準周期

- 施設を長く使うために、改修の周期を定め、不具合や支障が生じる前に計画的に対応する**予防保全的な改修**を行います。

(築後25年目～)

機能を回復するための**大規模改修工事**を実施します。

(築後40年目～)

機能回復に加え、**耐久性の向上、教育環境の改善**を行う**長寿命化改修**工事を実施します。

方針2: 時代の変化、社会的要請に応じた教育環境整備

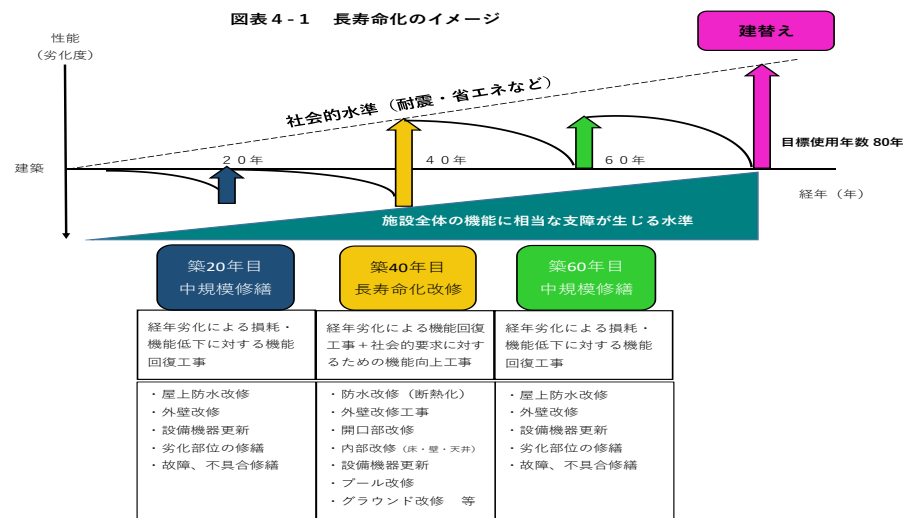
1 良好な教育環境・機能の整備

- 学習指導要領の改訂、インクルーシブ教育システムの構築、防災機能の充実などに応じるため、**必要な諸室や機能を整備**します。

2 施設の有効活用

- 少子化に伴い、学級数が減少している学校について、転用が可能な**教室を他の公共施設へと用途を替え、有効活用**していきます。

【長寿命化のイメージ】



長寿命化への課題

① 対象施設の現状

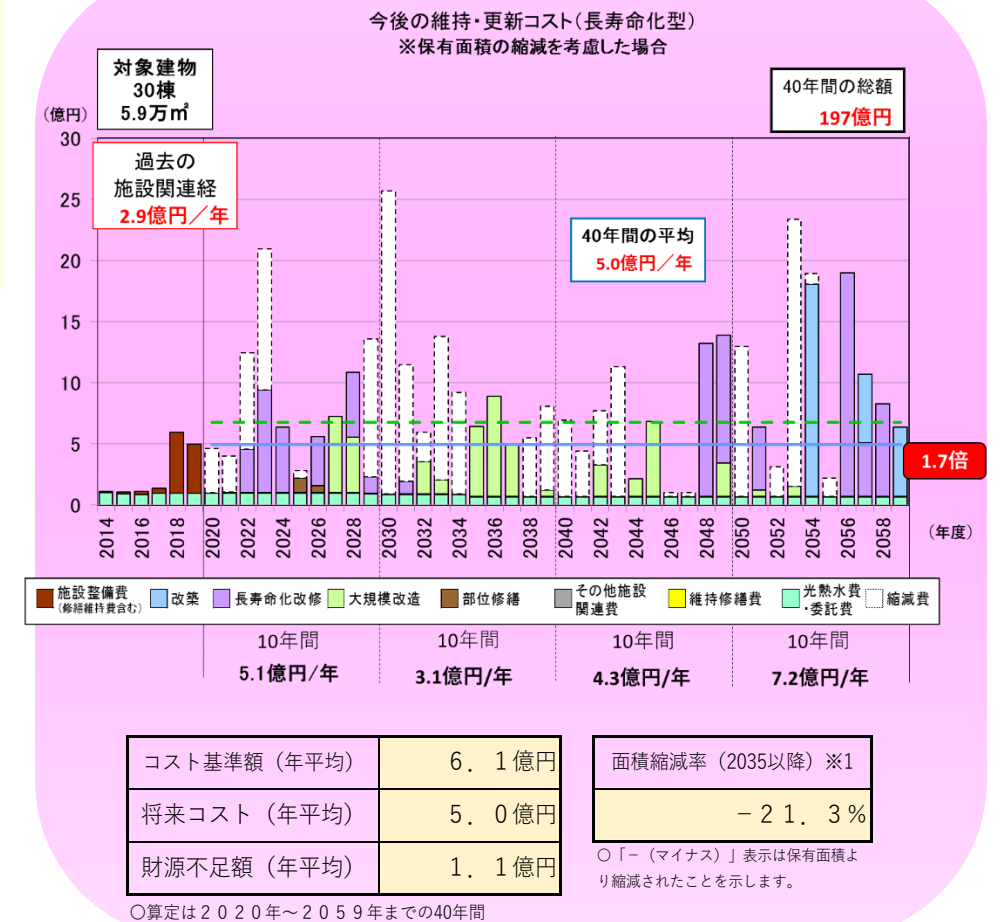
- これまでに、機能回復を目的とする大規模改修工事を行わず、築後40年目を迎える学校は、長寿命化工事にあたり、工事期間の長期化やそれに係る仮設教室等の一時的経費の増加などの費用負担の課題、また、工事期間中の学校運営面においても負担大となります。

② 建物劣化状況のバラツキ

- これまで部位ごとの修繕・改修を主に行ってきたことから、同じ築年数でも改修履歴等により、劣化状況が異なります。

③ 今後の維持・更新(整備)コスト

- 児童生徒が減少する中で、施設の維持・更新コストは増加していく現状を踏まえ、適正な規模の配置、また、運営面・活用面に及ぶ多面的な見直しが必要となっています。



○算定は2020年～2059年までの40年間